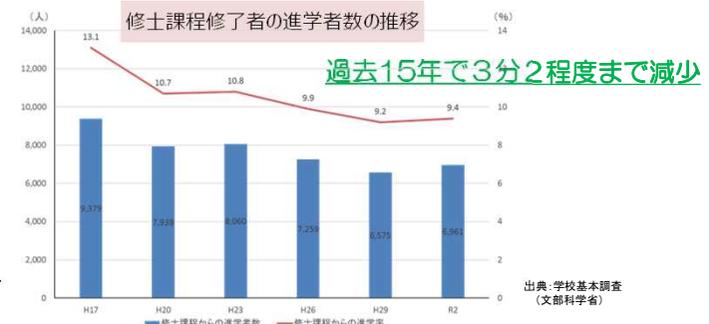


<現状把握・分析>

- 博士後期課程における経済的な不安や、研究者としての将来のキャリアパスが不透明であることにより、近年、我が国では、博士後期課程に進学する学生が減少傾向にある。
- 社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ（人材ニーズの乖離）が存在するとの指摘がある。
- 博士課程学生支援のタイプについて、国（①）から学生個人への支援に偏っており、諸外国と比べ、P I（③）、所属機関（②）からの支援の割合が低い。



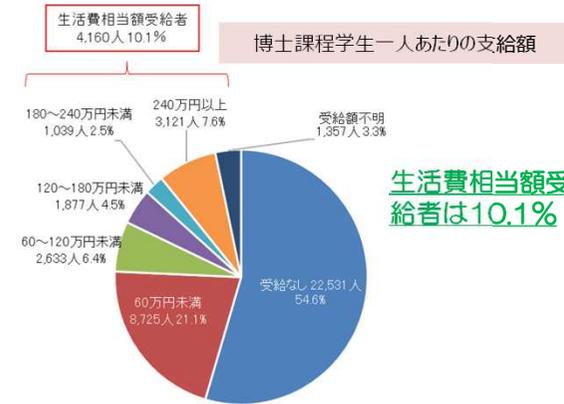
現状（補足）：エビデンス①

博士課程に進学する学生の減少

博士課程進学ではなく就職を選んだ理由

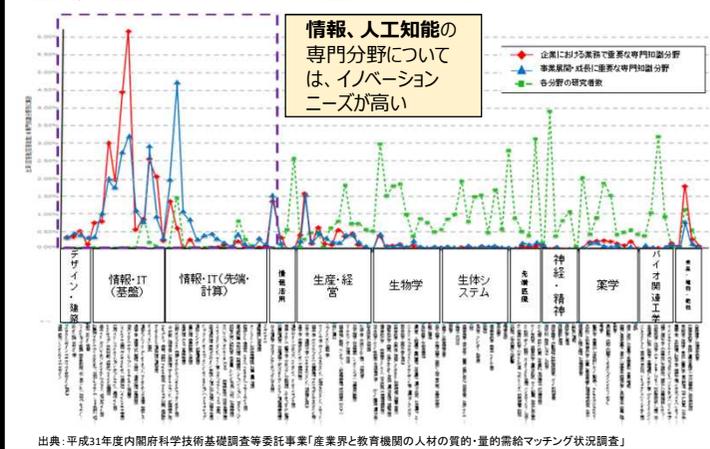


処遇の低さと
ポストの不足
が主要要因



現状（補足）：エビデンス②

社会や企業の期待と博士課程教育との間のギャップ



<課題の整理と課題解決に向けた対応策>

- ①「博士課程における経済的な不安」と「終了後のキャリアパスの不透明さ」への対応が必要
- ②産学を通じて人材ニーズの高い分野等での人材育成について、大学の戦略的な取組が必要
- ③博士学生支援のタイプの多様化（所属機関（大学）からの支援の充実）を図ることが必要

科学技術イノベーションの創出につながる、人材ニーズの高い分野において、

- ①博士後期課程学生の処遇向上（フェローシップ）と、②キャリアパスの確保を、一体として実施する大学への新たな支援策を創設する（令和3年度～）

現状（補足）：エビデンス③

博士学生支援のタイプの偏り

日本では、
①国から（学生個人への直接）の支援
②所属機関（大学）からの支援
③教授などのP Iからの支援
の3タイプのうち、①の割合が高い。
（半数以上が特別研究員受給者）

出典：令和元年度文部科学省先導的博士課程創設推進事業「博士課程学生の経済的支援状況に係る調査研究」

生活費相当額受給者（財源別）

財源名	受給者数
特別研究員（DC）	2,083人
博士課程教育リーディングプログラム	536人
運営費交付金等	378人
国費留学生	189人
民間団体（企業等）等の奨学金制度	149人

<関連する他の施策・事業について>

- ◎特別研究員事業（DC）
- ◎基盤的経費や競争的資金などによるRA

課題

対応策

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業：ロジックモデル②（具体的な施策）

インプット

【科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業】

○博士後期課程の進学者が減少傾向にある中で、**人材ニーズが高まる分野で活躍できる若手研究人材の育成**に向けて、優秀で多様性のある学生が**経済的な不安や将来のキャリアパスへの不安なく博士後期課程に進学できる環境を整える**とともに、**アカデミアや産業界のニーズを踏まえた研究活動の充実やキャリアパスを見通せるような取組を推進**する。

予算額（想定）	令和3年度	2,315,855千円
※2/3補助	令和4年度	3,849,188千円
	令和5年度	5,382,522千円

アクティビティ

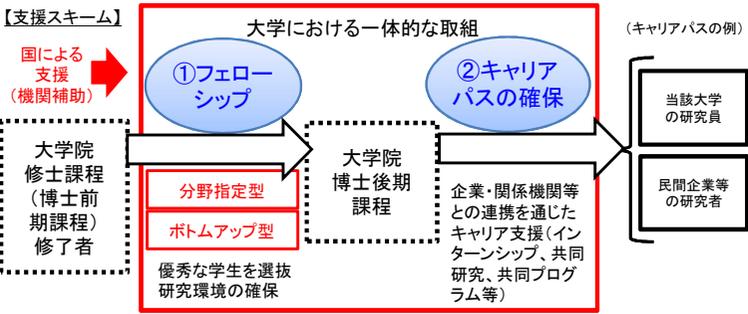
事業内容の説明

・国がトップダウンで指定する「産学を通じて、人材ニーズの高まる分野（情報・AI、量子技術、マテリアル等）」や、各大学がボトムアップで提案する「大学の強みや地域の強み等を生かしたイノベーションの創出等が見込まれる人文・社会科学を含む幅広い分野」において、**①博士後期課程学生の処遇向上（生活費相当額（180万円以上）の支援を含むフェローシップ）と、②キャリアパスの確保（博士課程修了後のポストへの接続）を一体として実施する大学を支援。**

➔ 47大学、1,065人を対象として支援（令和3年度）

○事例

- ・大学が全学的な戦略の下で、組織的な人材育成の充実の一環としてフェローシップを設けるような事例を想定。
- ・学生の審査やポストの確保に関しては、**企業・関係機関等との連携の下で取り組むことを想定。**



アウトプット

本事業の直接の成果

<博士学生支援の観点>

【フェローシップの受給者数】

令和3年度	1,065人
令和4年度	2,130人（見込み）
令和5年度	3,195人（見込み）

<組織改革・環境整備の観点>

【①フェローシップ設立大学数】

令和3年度	47 大学
令和4年度	〃
令和5年度	〃

【②外部機関と連携した大学数】

令和3年度	15 大学（見込み）
令和4年度	35 大学（見込み）
令和5年度	47 大学（見込み）

初期アウトカム（令和5年頃）

アウトプットを通じて得られる本事業の成果

<博士学生支援の観点>

【①（当該大学において）研究環境の充実に対する満足度の上昇】

- 当該フェローシップを受けている学生において、研究環境の充実に関する満足度が上昇すること。
※本事業で実施予定のアンケート調査によって確認。

【②（当該大学において）トランスファブルスキル向上を実感する学生の増加】

- 所属機関の取組を通じて、自身のトランスファブルスキルの上向を実感する学生が増加すること。
※本事業で実施予定のアンケート調査によって確認。

<組織改革・環境整備の観点>

【①（当該大学において）全学的な戦略に基づいた支援対象者の厳正な選抜の実施】

- フェローシップ支援対象者の選抜にあたり、優秀な学生が選定されるよう、全学的な戦略の下に厳正な選抜が行われていること。
※本事業で実施予定のアンケート調査によって確認。

【②（当該大学において）企業・関係機関等との連携を通じたキャリア支援の実施】

- インターンシップ、共同研究、共同プログラムなど、キャリアパス確保や学生のトランスファブルスキル取得に向けた関係機関との連携の取組が、当該機関において組織的に実施されていること。
※本事業で実施予定のアンケート調査によって確認。

中期アウトカム（令和7年頃）

本事業の先にある施策目標（他事業を含めた）

<博士学生支援の観点>

【①進学者の経済的不安等の減少】

- 文部科学省等が行う意識調査において、修士から博士に進学しなかった理由として経済的不安、及び博士修了後の就職への不安があると答える博士課程進学者数が減少すること。

【②大学から博士学生への支援の充実（博士学生支援の在り方の多様化）】

- 文部科学省等が行う博士課程学生の経済的支援状況に係る調査において、所属機関からの支援の割合が増加すること。

<組織改革・環境整備の観点>

【①（理工系の）博士課程進学者の増加】

- 学校基本調査において、理工系※における博士課程進学者数が増加すること。（※理学、工学、農学）
（参考：理工系博士課程進学者数(理工系修士課程修了者の進学率)）

出典：学校基本調査（文部科学省） 令和2年3月 3,354人（7.9%）

【②（当該大学の）博士課程修了者を採用した企業の数】

- 現状と比較し、当該大学の博士課程修了者を採用した企業数が増加すること。
※本事業で実施予定のアンケート調査によって確認。

長期アウトカム

社会の人材ニーズと博士課程での人材育成とのギャップが解消し、優秀な博士人材が適正な評価の下、社会の多様な場で活躍できる環境の実現を図る。

インパクト

産学を通じて、イノベーションの創出に資する博士人材が活躍することで、我が国のイノベーションの創出力を高め、その成果が社会に還元される。